



夏を添える

ピアノが小さな家を作り、
ギターがそこにぬくもりを添える。

海辺の駅で見た女のひとは、
美しい頬をしていた。
プラットフォームで電車を待っている時
その頬を夏空に向けて、
小さく息を吐いた。

夏時間

星まで届くストローで

海の泡を吹き出す

夏服の少女。

造物主

宇宙に浮かぶ珊瑚礁へ、人間を詰めた水晶をばらまき、そのあと彼は走り去った。
スニーカーをはいたまま、折れた傘を持って。

海の紙片

白い壁に寄りかかったまま目を閉じて
魚群を思い浮かべる。

傾いた地軸を
アジサシがかすめ飛ぶ。

サンゴの腕に蝶がとまる。

満ち潮に合わせて
卵塊がいっせいに
海へ流れ出る。

夢

バスターミナルの
コインロッカーをあけると
青い海が見えた。

真夜中のファンタジー

リーフにそそぐ月明かり。
寝そべって 考えた。

飛ぶ本をどうしたら捕まえられるか。

ほうき星

あれは
月に向かって
プラウを漕ぐ人だ。

ペンギン

長い眠りの中で
奇妙な羽飾りを増やしている。

泡立つ星々の中に
また一冊の本が飛んで行き

ヤシの実が落ちる寸前に
燃え尽きて 姿を消す。

海へ、星へ

枯れたら、
海へ行け。

星の言葉を、
聴け。

渦巻銀河
鳥葬
アンモナイトの化石。

星の子が梢を揺らすたび
新たな神話がこぼれ落ちる。

枯れたら、
海へ行け。

星の言葉を、
聴け。

月とマングローブ

沈む魚

浮かぶ魚。

木の根は踊り

青い満月に向かって

枝を伸ばす。

逆さに泳ぐ魚

跳ぶ魚。

饒舌なギーラを

青いステッキで殴りつけ

今宵 満月の空き部屋に 泊まる。

マングローブの空き部屋に 今宵 泊まる。

瑠璃色スコール

古い城。会話。
浮きの上に蝶が
羽を休めている。

視力が次第に戻る。
二つの椅子。
太陽の位置。

旅の話。

揃えられたフォークとナイフ

テーブルの端に
白い帆船が見える。

陶器の代わりにシャコ貝に
ランの花が映っている。

スコール。棧橋の上から
穴だらけの海面を見る。

瑠璃色の落雷が
水平線と教会を断ち切る。

あ . . .

ネコの目の中まで真っ青だ . . .

ヤドカリが時を止める。

ヤドカリが時を止める。

海の方を向いたドア。

耳鳴りのようなスコール。

ひととき、穴だらけの水面。

猫はねむそうな目を沖の方へ向ける。

(まっ青だ・・・)

雨雲のわずかな隙間にサバニが見える。

旅人を浸食する青。